

巻頭言

長野県植物研究会と清水建美先生

中山 洸（長野県植物研究会長）

清水建美先生は2014年11月25日、82歳の生涯を閉じられました。久しく病床にあられましたのでお逢いできずにいましたが、告別式の折には、その安らかなお姿に接し生前の御礼を申し上げ、お送りすることができ、心の安まる思いでありました。

先生は長野県植物研究会の生みの親であり、また育ての親でもありました。昭和35年、京都大学を終わられ、信州大学繊維学部就職されて、すぐに公開の研究室をもたれましたので、私は友人と共にその研究生となり指導を受けることになりました。最初に宮脇昭先生の「路傍の植物群落」というドイツ語で書かれた論文の勉強会でありましたので、先生の丁寧な指導にもかかわらず頭に入らずに困ったことを覚えています。現地調査ではモイワナズナの産地の岩鼻の植生というテーマをいただき、その標本同定、現地へ出かけての指導など、精力的な指導をいただきました。

その後、信大は松本の教養部の方に転任され、その翌年、先生の発案で林一六、平林国男、中山、清水先生の四者にて相談会を持ち、「長野県植物研究

会」を立ち上げることになりました。この名称には、「信州の植物を制するものは、日本の植物を制することができる」という清水先生の意欲がうかがえるものであります。そして、第一回の例会（総会）にて会則の承認、役員の選出により先生には幹事長を受けていただき会の運営をお願いすることになりました。当分の間、会長制をとらないということになりました。例会は年6回とし、会としての課題は2つ、「裏日本植物の研究」および「長野県植物文献集の作成」でした。そして、初回の例会の講演は清水先生の「高等植物のいわゆる裏日本要素*について」でした。先生の並々ならぬ意欲を伺い知ることができました。

研究会設立の趣旨は研究会誌第1号の後記に書いて頂いた次の文によく知ることができます。「本会は単なる同好会に止まらず、一方において定期的な勉強会をもち、互いに全く自由に意見を述べあつて会員の向上に資することをねらうと共に他方において会としての研究テーマをもち協力しながら資料を集積していくという方針でアクティブに運営される



写真 長野県植物誌出版祝賀会 松本市にて
最前列左から3人目が清水先生 1998.2.11

はずである。本誌はこのような私たちの勉強会の講演の内容を主として収録したものである。近い将来には本会の消滅がないことを祈り会員の方々の熱意と努力を期待したいと思う。」この研究会の課題はやがては“長野県植物誌”の作成という大きなテーマとなって包含されることとなり、そのための活動に精力的に取り組まれておりました。会の例会活動はもちろん、教育会関係の植物調査、観察会などをお願いすると必ず参加されて指導をしてくださいました。また、学内にあっては植物分類・生態ゼミを開講されて学生とともに山野を歩かれ多くの学生の指導と標本の採集をされました。今の標本庫をのぞくと“信大ゼミ”とラベルに記されたものが多く見られ、先生の植物にかけた精力的な姿を思い浮かべることができます。

研究会の一大事業であった植物誌の作成は多くの会員の汗の結晶ではありますが、その方向を示し、原稿は内容まで細かくチェックをいただきました。先生の頭の中にはそのときすでに完成予想図が描かれていたのではないかと、そしてこの事業が信州大学へ職を得た理由なのではないかと今は想像しております。清水建美先生が信州大学へ赴任されなかったら“長野県植物研究会”も“長野県植物誌”も今のような姿では存在しなかったものと言っても過言ではないと思っています。

以下には先生の略歴、業績等について記しましたが、お人柄等につきましても多くの方から“思い出の記”として頂いておりますので、T・S（建美・清水）先生へ思いを馳せていただきたいと思います。（* 裏日本要素；現在は日本海要素と呼ばれる）

清水建美（しみず たてみ）先生略歴

理学博士（植物分類学・地理学）、金沢大学名誉教授・信州大学名誉教授
叙位：正四位

1932 年（昭和 7 年）2 月 11 日 長野県松本市大字北深志にて出生。父清水基道、母一枝の第五子三男。
1937 年（昭和 12 年）4 月 松本市立田町小学校入学
1938 年（昭和 13 年）4 月 福井市立進放小学校に転校
1944 年（昭和 16 年）4 月 旧制県立福井中学校入学

1945 年（昭和 20 年）8 月 福井空襲に遭遇
1947 年（昭和 22 年）6 月 福井地震に遭遇
1950 年（昭和 25 年）3 月 転校して福井県立武生高校卒業
1950 年（昭和 25 年）4 月 福井大学学芸学部教育一部入学
1954 年（昭和 29 年）3 月 福井大学学芸学部教育一部卒業
1954 年（昭和 29 年）4 月 京都大学大学院理学研究科修士課程入学
1957 年（昭和 32 年）4 月 京都大学大学院理学研究科博士課程進学
1960 年（昭和 35 年）4 月 京都大学大学院理学研究科博士課程修了
1960 年（昭和 35 年）8 月 信州大学繊維学部助手
1963 年（昭和 38 年）6 月 学位取得（京都大学理学博士）
1963 年（昭和 38 年）8 月 信州大学繊維学部講師
1965 年（昭和 40 年）7 月 信州大学繊維学部助教授
1966 年（昭和 41 年）4 月 信州大学教養部助教授 信大植物分類・生態学ゼミナール開講（ゼミ在学学生のべ 250 名）
1967 年（昭和 42 年）6 月 長野県植物研究会発足。6 月 4 日に第 1 回の例会と総会が開かれ、19 名が参加した。幹事長に清水建美、幹事に林一六、平林国男、中山洸、鷺沢正明が決まった。発足年の会員数は 29 名。
1971 年（昭和 46 年）10 月 信州大学教養部教授
1988 年（昭和 63 年）5 月 金沢大学理学部教授
1997 年（平成 9 年）3 月 金沢大学定年退官
1997 年（平成 9 年）12 月 長野県植物誌発刊
2002 年（平成 14 年）9 月 東京にて倒れられた
2014 年（平成 26 年）11 月 25 日 逝去（82 歳）

主な役職

昭和 63 年 4 月植物地理・分類学会初代会長
植物地理・分類学会評議委員・編集委員
長野県生物多様性研究会会長（平成 14 年度まで）
日本高山植物保護協会会長（平成 15 年度まで）
長野県植物研究会名誉会長
長野県植物誌編纂委員長
信州植物調査ハイキング主宰

白山高山植物研究会会長

長野県版レッドデータブック作成委員会委員長

主な著書

- 1966年 更級埴科地方誌第1章自然編、更埴地方誌刊行会（植物分担執筆）
 1982年 日本の野生植物 草本植物Ⅱ、平凡社（共著）
 1982年 原色新日本高山植物図鑑（Ⅰ）、保育社
 1986年 検索入門高原と高山の植物（Ⅰ）・（Ⅱ）、保育社
 1987年 検索入門高原と高山の植物（Ⅲ）・（Ⅳ）、保育社
 1989年 日本の野生植物 木本Ⅱ、平凡社（分担）
 1995年 日本草本植物根系図説、平凡社（共著）
 1996年 中国天山の植物、トンボ出版（共著）
 1997年 長野県植物誌、信濃毎日新聞社（監修）
 2001年 長野県版レッドデータブック（維管束植物編）
 2001年 図説植物用語事典、八坂書房
 2002年 長野県植物誌データベース CD-ROM、同作成委員会（監修）
 2003年 日本の帰化植物、平凡社（編集）
 2003年 大岡村誌、大岡村誌刊行会（編集委員）

主な論文（長野県植物研究会誌掲載のみ）

- 清水建美（1968）高等植物における裏日本要素について、第1号 1-5.
 清水建美（1971）日本産アザミ属植物の分類と新種ヤチアザミについて、第4号 1-8.
 清水建美（1976）欧州で見た日本植物研究史Ⅰ、第9号 55-63.
 清水建美（1977）高等植物の微細構造—とくにホウセンカ属植物について—、第10号 118-124.
 清水建美（1977）欧州で見た日本植物研究史Ⅱ、第10号 130-137.

木下栄一郎・清水建美（1978）長野県堀金村におけるマムシグサ集団の一観察、第11号 54-56.

清水建美（1979）「長野県植物誌」の作成方法、第12号 50-54.

清水建美（1980）長野県に新たに加わる植物Ⅶ、第13号 10.

清水建美（1980）植物地理学寸評、第13号 7-9.

清水建美（1981）高山植物覚え書Ⅰ、第14号 8-9.

清水建美（1982）高山植物覚え書Ⅱ、第15号 4-5.

清水建美・岡崎純子（1982）トガクシタンポポについて、第15号 5-6.

清水建美（1983）マンテマ属の種類と分類—長野県のプロラ作成のために—、第16号 58-61.

清水建美（1985）ニュージーランドの高山植物と植生、第18号 41-46.

清水建美（1986）砂漠と氷河—中国の旅、第19号 14-19.

清水建美（1986）アカエゾマツとエゾマツ、第19号 49.

清水建美（1988）ニシキギ科植物の花序のつき方、第21号 12-13.

清水建美（1990）分岐分類学と分断生物地理学、第23号 23-35.

清水建美編集（1998）「長野県植物誌」補遺、第31号 40-43.

清水建美編集（1999）「長野県植物誌」補遺（2）、第32号 67-69.

清水建美編集（2000）「長野県植物誌」補遺（3）、第33号 67-69.

清水建美（2001）長野県植物誌資料集の出版に向けて—長野県植物誌資料集作成委員会の報告一、第34号 71-72.

略歴のまとめは、「清水建美年譜—植物分類学者の歩み」（2003）を参考にさせていただきました（大塚孝一）。